

私は1993年に歯学部9期生として卒業後、小児歯科学講座に入局し、西野瑞穂先生に師事しました。当時の思い出として今でも忘れられないのが、西野先生のお子様への熱い思いと自分自身に対する厳しさです。教授自らが最も早く医局に入り、最も遅く帰宅され、一切の妥協を許さず研究・

先輩に続け

歯科医療に 新たな潮流を探して…

医療法人とみなが歯科医院 理事長
富永 敏彦 (とみながとしひこ)



略歴 Profile

徳島県鳴門市出身
1993年 徳島大学歯学部歯学科卒業
1994年 徳島大学歯学部小児歯科学講座助手
2000年 医療法人とみなが歯科医院理事長
2010年 徳島大学大学院口腔科学教育部 口腔科学専攻 博士課程修了
2011年 徳島大学研修登録医

4年間大学に勤務した後、勤務医を経て、2000年に故郷である鳴門市に開業しました。当時は、地域医療に貢献したいというような崇高な思いは微塵もなく、ただ単に「開業医になるために開業する」といったような、本当に陳腐な何のポリシーも持たない船出だったように思います。

開業当初、そのスキルを身につけるため、講習会に頻繁に参加しました。休みの日ごとに大阪・京都に行つて、新しい技術を習得し、医院に導入していくということを繰り返していました。その中で特に興味を持ったのが「歯内療法」、

関する文献を探索していくなかで「除菌するために、電磁波による熱を利用すれば…」という思いつきで、卵白を用いた簡単な実験を院内で行ったのが「電磁波骨再生療法 E.M.A.T (イーマット)」の始まりでした。

そして、徳島大学へ

現在、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部歯科保存学分野教授松尾敬志先生、病院歯科第一保存科講師湯本浩通先生のもと、本治療方法のエビデンスを確立するべく、徳島大学名誉教授木内陽介先生(工学部)のご協力を得て、研究は進んでおります。

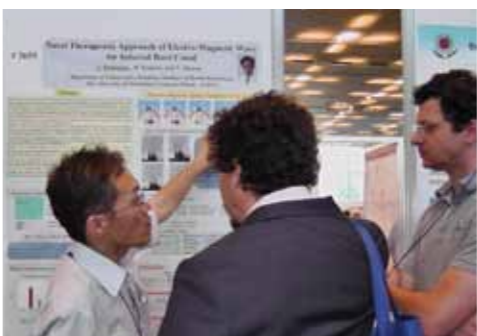
臨床のなかで生まれた「電磁波骨再生療法 E.M.A.T (イーマット)」を、再度徳島大学に戻つて基礎研究を行うにあたり、母校のありがたさを実感しております。

現在、私は信頼できる3人の歯科医師を含めた Crew 23人と一緒に、「天然歯を残す」ために歯科診療を行っています。

私のバイブルである渡邊美樹さんの著書「あと5センチ夢に近づく」ためには…の後は、「あきらめない」が続くのではないだろうかと思う毎日です。



臨床医として・・・



American Association of Endodontists ANNUAL SESSION '09 発表 (2009.5.1)



医療法人とみなが歯科医院 Crew

診療に打ち込む姿勢は、今でも私の歯科医師としての理想像です。大学勤務当時は、歯学部生だった時よりも、図書館に足しげく通っていました。学生時代はとにかく試験に合格さえすればよかったのですが、歯科医師となつてから何も知らないことを嫌というほど思い知り、小児歯科学だけでなく他分野の文献や書籍を読みあさっていました。

マーケティング、マネージメント、スキルの3つだと考えています。つまり、経営者として、歯科医師として、その両面の考えが必要になります。しかしこれらが一致していればいいのですが、クライアントのためと経営が成り立たないといったジレンマに陥ることがよくあります。それゆえ、効率よく最高の治療を行うためにスキルを上げていくということにな

いわゆる「歯の神経治療」でした。歯科の対象とする疾患の大部分が感染症です。「歯内療法」とは、歯の中に入った細菌をいかに除去するかの一言に尽きます。そのため、様々な器具や薬品を駆使して除菌を図るわけですが、なかなかうまくいかず抜歯に至る症例も多々ありました。私も多くの情報を取り入れ、Try and Error を繰り返して、殺菌に

私は2012年7月から9月末までの3ヶ月間、アメリカ合衆国のコロラド州立大学へ研究留学する機会を得ました。コロラド州立大学は、コロラド州の州都デンバーから北へ100キロメートル程離れたフォートコリンズという人口約13万人の小さな町にあります。

「博士課程に進学するからには、修士課程と違う経験をする！」私が修士課程1年で博士課程へ進学する覚悟を決めたときに立てた目標です。今回の留学は、この目標の中でも一番大きなものでした。わずか3ヶ月間の留学でしたが、入国審査での強制帰国の危機、初日でのパソコンの故障と渡米直後にトラブルの連打に見舞われました。これらの危機を克服できたおかげで、「外国でもなんとかなる」という意識が生まれ、その後の小さなトラブルはトラブルとも思わず過ごすことができました。

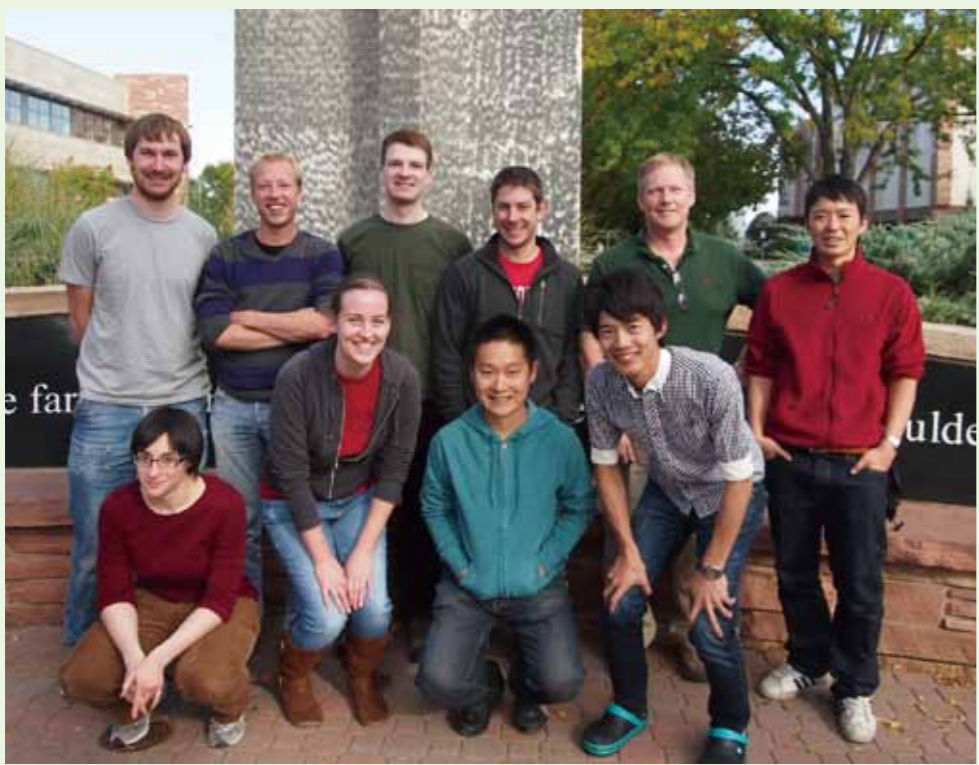
コロラド州立大学化学科の John Wood 教授の下に私は留学しました。Wood 教授は天然物の全合成研究において著名な研究者であり、私はある天然物を合成する上で鍵となる二つの中間体の大量合成に携わりました。私の専門は有機化学と生物学を組



海外 体験記

コロラドという先生 多くを学んだ短期留学

薬科学教育部創薬科学専攻薬品合成化学分野
博士後期課程3年 山本 純 (やまもとじゅん)



Wood教授とグループメンバー(本人前列右)

み合わせたケミカルバイオロジーであるため、有機合成に没頭した3ヶ月間はとても有意義なものでした。私は、「多くの外国人と交流する」という目標も持っていました。このため、研究活動に専念するばかりではなく、実験はなるべく効率よく行い、空いた時間を利用して様々なイベントに参加しました。毎週開催される留学生メインのバーベキュー、教会で開かれていた無料の英会話教室、ボウリング大会やコスプレ大会にまで参加しました。これらのイベントで仲良くなった友人の何人かは今夏に日本を訪れる予定であり、再会の約束を交わして帰国しました。

海外留学は視野を大きく広げること、きつかけとなるのは当然ながら、新たな価値観をも見出すことができる素晴らしいものです。私の体験記を読み、海外留学に少しでも興味を持ってくださった方がおられましたら幸いです。

最後に、今回このような有意義な機会を与えるてくださったりました本学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部(薬学系)の高大章教授およびお世話になりました諸先生方に深謝いたします。



教会での英会話教室



留学生が多数参加するイベント